



ピアかわら版 No. 13

動物病院

TEL 048-268-7679

いろいろなお薬

人間のお医者さんと同じくらい動物病院でもいろいろなお薬を使っています。今回は、よく使われるお薬の説明をさせていただこうかと思います。

抗生物質

細菌（いわゆるばい菌）の増殖を抑える薬です。種類のにもたくさんあり、症状などに合わせて使い分けをします。

消炎鎮痛剤

よく痛み止めとして使います。炎症を抑え、痛みを止め、解熱効果がある薬です。胃に少し負担がくることがあります。

制酸剤

胃酸の分泌を抑える薬です。胃酸を押さえることにより胃粘膜を保護します。胃炎など起こしたとき、吐き気があるときによく使います。

制吐剤

吐き気止めです。胃から十二指腸の運動をよくして吐き気をとめる効果があります。また、食道から結腸まで消化管全体の運動を良くする薬もあります。

痒み止め

皮膚の痒みに対して処方します。副腎皮質ホルモン（ステロイドホルモン）がよく使われます。ステロイドについて詳しくはかわら版No.7を参照！

下痢止め

お水のような下痢、軟便、粘膜がかぶった下痢、血便など下痢には色々ありますが、そのときの症状にあわせて、お薬を処方します。（抗生剤・大腸炎を抑える薬・整腸剤・ビフィズス菌などあります）

ACE阻害薬

心臓病のときに使います。末梢の血管を拡張させて、血圧が上がることを防ぎます。腎機能や肝機能を保護する効果もあります。降圧剤とご説明することが多いです。

気管支拡張剤

気管虚脱（気管が扁平につぶれてしまった状態）で咳がひどく出るときに処方します。気管支を広げて空気の通りを良くし、呼吸を楽にすると同時に咳を緩和します。

鎮咳剤

中枢に働いて咳を止めるお薬です。気管支炎や肺炎などで飲まされると、後で症状が悪化することがあるので注意が必要です。心臓が原因の咳に対して処方することが多くあります。

駆虫薬

お腹にいる寄生虫を駆除するお薬です。回虫・鞭虫・鉤虫・条虫が駆除できます。少し前に話題になったエキノコックスも駆除できます。ワンちゃんだと他にトリコモナスやランブル鞭毛虫も駆除できるとされています。

抗ヒスタミン剤・抗アレルギー剤

主にアレルギー性の皮膚疾患で使います。アレルギーを抑える効果が期待できます。痒みを止める補助的な役割をします。

ビタミン剤

食欲がない時に点滴に混ぜて使います。ビタミンCは活性酸素を抑える効果があります。ビタミンB群は食欲がない時に必要とされます。また、神経系の疾患でも使用することが多くあります。

